

2025年12月作成

KOBEゼロカーボン支援補助金

報告会・交流会参加者 活動紹介シート



＜名前＞

一般社団法人一十土

歴 3 年

＜活動エリア＞

北 区

大沢町

＜活動の分類＞

里山・竹林整備、再生可能エネルギー

＜活動紹介＞

1. 竹林問題の認識向上

—竹林の放置が生態系に与える影響を伝え、「竹害」の解決策として竹ボイラーを紹介

2. 脱炭素と再生可能エネルギーの重要性

—バイオマスエネルギーの仕組みを学び、カーボンニュートラルの考え方を理解する。

—竹ボイラーの導入が化石燃料削減につながることを伝える。

3. 工コ民泊や地域活性化の可能性

—竹ボイラーを導入した宿泊施設のモデルケースを紹介し、持続可能な観光のヒントを提供。

—地域の竹資源を活かした新しいビジネスチャンスについて議論。

活動人数

1

人

＜アピールポイント＞

・身近な資源を活用

竹は成長が早く、日本の多くの地域で手に入るため、地元の資源を有効活用できる。

放置竹林の問題解決にもつながり、環境保全とエネルギー活用を両立できる。

＜課題＞

「竹害」を自分ごと化→竹の活用と環境保全を意識

・「問題の可視化」と「解決策の実感

放置竹林が生態系を壊す様子を写真や事例で示し、環境問題を実感。

一方で、竹をエネルギーに変えることが「解決策」になり得ることを知り、積極的に関心をもつききっかけとなる。

＜今後の目標＞

・地域コミュニティの活性化

竹林整備を通じて地域住民や地元企業、学校が協力する機会が増える。地元の企業や職人（竹製品、設備工事業者など）の仕事創出にもつながる。

・エネルギーの地産地消が進む

地域の資源（竹）をエネルギーとして活用することで、輸入燃料（石油・ガスなど）への依存を減らせる。災害時のエネルギー供給手段としても期待できる。



＜名前＞

特定非営利活動法人
PVネット兵庫グローバルサービス

歴 12 年

＜活動エリア＞

灘 区

水車新田発電所の森

＜活動の分類＞

里山・竹林整備（自然エネルギー普及と里山整備）

＜活動紹介＞

六甲川沿いの山林内に小水力発電を設置し、見学者を受け入れることで環境学習の場とすると共に、里山資源を活用した自然とのふれあいを楽しむイベント開催や地球温暖化防止に寄与する脱炭素につながる活動をしています。また、持続可能な地域社会の実現に向けて、自然エネルギーの普及、山林資源活用と資源循環等をテーマとした市民向けのセミナー、勉強会、フォーラムを毎年開催し知恵ます。

活動人数

20

人

＜アピールポイント＞

『学びの場・憩いの場』：脱炭素に寄与する小水力発電について、子供から大人までを対象として実際に見て「小水力発電とはこういうものだ」と学び、薪割や植物観察会、シイタケ菌打ち体験に参加し、自然とふれあいながら樹木や植物に関する知識を深める場所です。樹木に囲まれた広場に集まって参加者どうし、作業をしながら資源活用を話題にワイワイと会話をしていただく憩いの場もあります。

＜課題＞

里山整備では一度伐採し資源として活用すれば終わるものではなく、萌芽再生させて循環させることが肝要です。また、『学びの場・憩いの場』を継続するためには循環あるイベント企画が必須です。そのためには若者が参加する持続可能な体制と資機材を維持保守していくための資金や、有識者、専門家の支援が必要となります。また構成メンバーの高齢化が進んでおり後継者育成・確保が喫緊の課題です。

＜今後の目標＞

「水車新田発電所の森の会」を立ち上げ、新たな会員の募集をしています。本会の目的は①森林などの自然環境の維持・保全を通して地球環境温暖化防止に資する②里山林としての整備活動を継続する③森を学びと憩いの場として活用することで、子供から大人まで幅広い年齢層が一緒になって地球温暖化防止について考え、活動する場づくりに向けて継続的にチャレンジしていきます。



＜名前＞

工藤 祥

歴 2 年

＜活動エリア＞

北

区

大沢町市原周辺

＜活動の分類＞

里山・竹林整備

＜活動紹介＞

いちご観光農園しあわせファームの有志から始まった活動で、現在はN P O法人を立ち上げ活動しています。里山整備が経済を生み出す仕組みを構築すること、世代が下っても持続的に続けられる魅力をふりまくことを目標としています。具体的には・・・まだまだ企業秘密の段階です。現状、メインの活動は、森林整備、竹林整備、子ども食堂（体験型）となっております。

活動人数

10

人

＜アピールポイント＞

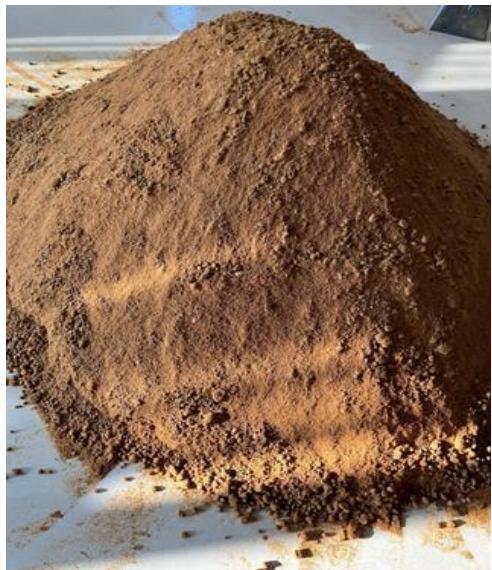
活動を次世代につなぐべく、できるだけ子どもを集め、体験会を催しています。青年世代は、就業の為村外、市外、県外。外に流出するばかりです。子どもたちに村の魅力、経済潜在力を感じてもらい、村で起業、就業してもらうきっかけにするような活動を心掛けています。

＜課題＞

持続的な農村活動を目指している中、高齢化、若手流出、農村経済の衰退をどう解決するか。

＜今後の目標＞

里山保全活動が、農村経済を活性化させる仕組みを作る。



＜名前＞

六甲バター株式会社

歴 4 年

＜活動エリア＞

西 区

見津が丘 / 櫨谷付近

＜活動の分類＞

再資源化（食品廃棄物の肥料化）

＜活動紹介＞

弊社神戸工場からどうしても出てしまうチーズ廃棄物を、肥料化して循環させる取組みをしています。現在は製造面の試験と、作製した肥料の効果を確かめる栽培試験を実施しています。栽培試験には、自社圃場のみならず、大学や高校、協力農家さんや神戸農政公社様にご協力いただいております。また、チーズ肥料をはじめとする弊社の脱炭素に関わる取組みの普及・啓発・小学生向けの教育の場として、25年には子ども向けのワークショップを実施しました。

活動人数

約 12

人

＜アピールポイント＞

「チーズは栄養価が高いのに、その残渣をお金をかけて処分（焼却など）するのにはモッタイナイ」という思いから、チーズの栄養的特長をうまく生かした再生方法を模索しています。その第一弾が「肥料化」です。土壤改良を主目的とする「堆肥」ではなく、農作物の栄養となる「肥料」としての役目があることがアピールポイントです。

＜課題＞

企業で取り組んでいる以上、経営面でも「持続可能な脱炭素活動」を目指しています。「いかに効率よくチーズ肥料を作るか」について、特に工程の改良を加えながら日々奮闘しています。

＜今後の目標＞

27年上期までに肥料登録を完了させ、順次テストマーケティングを実施する予定です。ゆくゆくは契約農家を探し、栽培した農産物のブランド化に取り組みたいと考えています。様々な価値の提供や、「食」の循環システムの構築へと繋げていくことが目標です。



5月・6月 竹チップ製作（堆肥材料）



竹パウダーを使ったボカシ作りWS（9/21）



枯れ竹を活用した団体初の竹炭作り（11/29）
作った竹炭は、耕作地のオーナーで掘った穴に入
れて、循環農法を行う土壤改良を推進する。

＜名前＞

中井 一夫（須磨白川有機の会）

歴 2 年

＜活動エリア＞

須磨

区

白川西小屋

＜活動の分類＞

里山・竹林整備、バイオ炭、再資源化

＜活動紹介＞

白川村 藤田守氏の所有地全体を活用した活動を実施中
 ①森林整備（今年度 取り組み新規追加）
 ②堆肥作り（地域の資源を活かした有機肥料）
 ③環境再生型農業（不耕起栽培）
 ④キノコ栽培（シイタケ・キクラゲ・ナメタケ・ヒラタ
 ケ・・・）
 ⑤養蜂（ニホンミツバチ）

これらの活動分野を組み合わせ、今年度は5回のワーク
 ショップを行っている。
 森林整備は、今年度2月から本格実施予定。

活動人数

9

人

＜アピールポイント＞

SSOCの活動は、個人が楽しみで行う家庭菜園だけではありません。
 我々が行っていることは、大きく捉えれば自然環境保護、防災、減災、地域貢献に
 繋がっていると思っています。
 小さなボランティア団体ですが、脱炭素推進に取り組んでいます。その取り組みは、
 温室効果ガス削減推進市民ネットワークが推進している竹炭の炭素固定量算出シ
 トで『見える化』しています。12/20実績：CO₂固定量：401.4kg-CO₂

＜課題＞

①広報の充実

- ・HP (note) の開設・運用 [須磨白川有機の会 | note](#)
- ・森林整備の充実（森林整備ができる会員の育成）
 ※先ずは、整備モデル区域を設ける。

②活動資金の確保

- ・助成事業の獲得

＜今後の目標＞

- ・須磨白川有機の会の知名度向上（耕作地は狭く、会員数増加は望まない）
- ・神戸市が発表している『神戸里山再生戦略～里山を未来の世代につなぐために～』の方針書を参考に、森林整備隊（仮称）を派生設立し、価値ある森林整備を目指す。

これらの取り組みが、須磨白川有機の会が取り組んでいる、資源を循環させながら行う自然環境保護、防災、減災、地域貢献に寄与することを目標としている。



＜名前＞

伊與田 安正、増井 良夫、
久野木 淳一、高田 知紀
(上穂川フィールド再生・活用ネットワーク)

歴 4 年

＜活動エリア＞

須磨 区

多井畠西地区北部

＜活動の分類＞

里山・竹林整備（放置竹林の整備）

＜活動紹介＞

須磨区と垂水区の多井畠の住宅地に囲まれた72haの広い里山の内の北部の放置竹林2haの整備を行っています。整備過程で得られる大量の枯れ竹や青竹の全てを、2台の粉碎機にて竹チップにしたり、4台の無煙炭化器によってポーラス竹炭化にしたりして、厄介者の場所や物を価値ある場所と価値ある竹製品になるように取り組んでいます。活動は月2回を定例活動日とし、他に適宜臨時活動日を設けて円滑に活動ができるように努めています。日々の活動は上穂川北のブログ
(<https://sumatake.blog.fc2.com/>) に。

活動人数

平均 15

人

＜アピールポイント＞

須磨と垂水の大きな住宅地に囲まれながらも、電信柱1本もなく鳥のさえずりや竹林に吹く風の音を聞きながら、日常とは異なる別世界の風景の中で作業をしています。絶滅危惧種に分類される珍しい動植物にも出会うことがあります。一汗かく毎に竹林の整備が進み、その作業の成果を体感させてもらっています。

＜課題＞

- ・本里山を将来どのような場所にするかの地元と行政のすりあわせが出来ていない
- ・住宅地に囲まれながら途中の道の整備が悪い
- ・農道の整備が悪く、作った竹製品の運びだしに制約がある

＜今後の目標＞

- ・竹チップおよびポーラス竹炭の販路の開拓を進めて林内整備を促進する
- ・販売による収入を得、活動が自前でできるようにする
- ・参加者募集に務め、整備した竹林の維持/育成と新たに整備する放置竹林の面積を増やせるようにする



＜名前＞ 倉内 敏章、稻垣 将幸 歴 1 年

＜活動エリア＞ 西 区 平野町印路

＜活動の分類＞ 再資源化

通常廃棄されるコーヒーかすと米ぬかを再利用し、化石燃料や新規資源を使わずにきのこを生産します。きのこ栽培後の菌床は堆肥として畑に戻し、最終的に土に還元されるため、循環型の炭素固定サイクルが成立し、廃棄物処理に伴うCO₂排出を削減します。栽培されたきのこは地域内で消費され、フードマイレージの削減に貢献します。

月2回の野菜配達に使用している自転車便を活用して市内のコーヒーかすを回収するため、新たな輸送に伴う炭素排出も最小限に抑える計画です。これらを通じて、地域内資源循環とCO₂排出抑制を両立する脱炭素モデルを構築します。

活動人数 2 人

＜アピールポイント＞

都市部と農村で出る産業廃棄物が資源に生まれ変わる取り組みです。保育園や小学校などでのこの収穫体験を実施し、脱炭素モデルへの理解を広める計画です。

＜課題＞

消費者の生活エリア（神戸市中央区）で栽培することを計画していたが、賃料が高くペンディング中です。現在、きのこ栽培のノウハウを蓄積するため、西区の空き家を利活用し生産している。

＜今後の目標＞

本脱炭素モデルはどの都市でも展開可能です。まずは神戸モデルとなるべき、神戸市内のホテルや飲食店などへ拡販していきます。あわせて、きのこ収穫体験会を市内の小学校で実施し、脱炭素モデルへの理解を深めます。



＜名前＞

社会福祉法人すいせい

歴 1 年

＜活動エリア＞

垂水、北

区

(北区淡河町)

＜活動の分類＞

里山・竹林整備 (竹林整備)

＜活動紹介＞

- ①放置竹林を伐採し、無煙炭化器を使用して竹炭製造。
これを地域住民の行っている家庭菜園や法人内自然菜園に投入し、土壤微生物の定着促進に活用
- ②伐採した竹で、竹箸や竹皿等の食器製作ワークショップ
- ③伐採した竹を菜園内の畝枠やトマトやナス等の支柱に活用
- ④竹炭を投入した自然菜園で育ったハーブを使用してアロマ蒸留のワークショップ等を、就労継続支援B型利用者や地域住民に参加していただき、放置竹林問題の啓蒙に取り組んでいます。

活動人数

20

人

＜アピールポイント＞

就労継続支援B型利用者や就労移行支援利用者など障害者でも無理なく参加できることからスタートしています。参加した方が「楽しい」「面白い」「またやりたい」といってもらえるイベントをしていけたらと考えています。

＜課題＞

放置竹林等を解消するにあたっては、根本的に参加人員が少ないと考えられます。また、竹林が放置されていることはわかっているが高齢化で動けない・伐採する時間が等々でどうしようもないと思っている土地所有者へのアプローチ方法が少ないとと思われます。

＜今後の目標＞

地域住民への放置竹林問題や里山再生問題についての周知や啓蒙を進めていくために、定期的にイベントを開催し、楽しく学べる機会を創っていきます。



＜名前＞ 上垣内 賢司（ヌフ松森医院） 歴 5 年

＜活動エリア＞ 北 区 淡河町エリア

＜活動の分類＞ 再エネ電力の活用
(空き家再生による地域活性化)

＜活動紹介＞

神戸市北区淡河町を拠点に、旧病院跡の再生と活用を通じて地域の未来を育む活動をしています。地域活性化を軸に、歴史遺産の保存と運用、農村移住支援に「お試し住居」の運営などを行い、都市と農村をつなぐ架け橋となることを目指しています。お屋敷カフェや駄菓子屋の運営、昭和レトロカフェや雑貨を通じ、訪れる人々に懐かしさと新しい交流の場を提供しています。施設内エネルギーの地産地消を実践し、持続可能な暮らしを地域に広げる取り組みも進めています。

活動人数 8 人

＜アピールポイント＞

歴史資源の再生：旧病院跡や残資料を活用し、地域の歴史を未来へつなぐ。

地域活性化と交流拠点：カフェ・駄菓子屋・展示スペース、子どもから高齢者まで集える場創り

農村移住の支援：お試し住居を整備し、都市から農村への移住を後押し。

持続可能な暮らしの実践：エネルギーの地産地消を進め、ゼロカーボンを目指す地域モデル

多世代交流の実現：世代を超えたつながりを育み、都市と里山の交流を深めたい

＜課題＞

持続的な運営体制の確立：カフェや駄菓子屋、展示など複数の事業を並行して運営するため、人材や資金の安定確保が必要。収益性の低い里山地区の事業は、困難度が高いと思われる。

歴史遺産の保存と活用のバランス：旧病院跡や新医院跡他を活用する為の修理やインフラ再生費用、保存のためのコストや維持管理費と、収益性を高める事業性の両立が難しい。

エネルギー地産地消の拡大：太陽光発電、EVと実践は進んでいる、広げるには導入費用が課題

多世代交流の継続性：イベントや拠点で交流は生まれるが、日常的に世代間が関わる仕組みづくりが課題。

情報発信と認知度向上：集客や動員の為に、広報・PR戦略が強化の余地あり。

＜今後の目標＞

「地域と施設の魅力を未来へつなぎ、持続可能で多世代が集える拠点づくり」が大きな目標であり、加えて次世代へのバトンタッチが目標です。



＜名前＞

一般社団法人須磨里海の会

歴 2 年

＜活動エリア＞

須磨

区

須磨海岸

＜活動の分類＞

ブルーカーボン（里海活動）

＜活動紹介＞

里海活動は、任意団体を含めると9年、スマスイ時代を含めると16年になります。当初は、須磨海岸で採れなくなつたアサリの再生を主に、砂浜生態系の調査研究や教育啓発を行っていました。その後は、生きものとブルーカーボンの増大ために、藻場づくりを主事業として行っています。里海とは、人の手により生き物の多様性と生産性が向上した沿岸のことです。そのために、全国の里海関連団体や研究機関と連携し、須磨海岸で得たさまざまな成果や課題を共有し、海の問題の改善に取り組んでいます。

活動人数

30

人

＜アピールポイント＞

里海活動は、水族館（スマスイ）で市民・漁協・行政と協力して始めた環境保全活動であり、地域貢献活動です。今は、海を豊かにするための環境づくりと環境教育・啓発活動を主事業とし、須磨海岸では3団体でSuma豊かな海プロジェクトを行い、須磨海岸が2025年に環境省等より自然共生サイトして認定されました。

＜課題＞

- 1) 人材：日々の活動に係る若手人材のほか、特に団体の中枢を担う人材が不足
- 2) 資金：収益事業の体制が整備されておらず、自由に使える資金の獲得を要す。
- 3) 技術：海は広いため、より効率的な調査や保全活動ができる機器開発が必要。
- 4) 行政へのアピール力：弱小団体では、根本的な環境の課題は解決できない。

＜今後の目標＞

30by30の2030年までに、須磨海岸が広く里海として認知され、人工的な環境ながら、自然の恩恵を実感できる藻場の再生創出活動、その調査分析機能及び発信力を備えた団体に成長させ、それをSuma 豊かな海プロジェクトなどを活用し、未来に向けて持続的な活動にすること。



＜名前＞

ラジブ・クマル・シン、小池 春伽

歴 1 年

＜活動エリア＞

須磨

区

白川

＜活動の分類＞

里山・竹林整備（竹林整備）

＜活動紹介＞

環境問題に関心の高い神戸市外国語大学の学生を中心として活動しています。伐採した竹で竹あかり作りや竹モルタル体験のワークショップの開催、チップ化して路面舗装、パウダー化してコンポストに活用しています。また、少子高齢化や人口減少が課題の地域でこれらの活動を通して関係人口を増やし活性化することを目指しています。机上で学ぶ環境問題について、学生が自らのアクションを通して自分ごとに考え、学びを地域に還元できるよう努めています。

活動人数

15

人

＜アピールポイント＞

環境問題に関する知識と調べ学習のスキルがある学生が多く関わっており、研究に基づく実践を行えているところが私たちの魅力です。スピーディーに複数の取り組みを行っているところも、環境問題に対して多方面からより包括的にアプローチできていると言えます。

＜課題＞

学生の授業、アルバイト、就職活動が重なり、参加の調整が難しい場面が多くありました。さらに、急な体調不良や個人的な予定によって活動が遅れることもありました。白川では雨や強風などの天候不良により、日程の変更やフィールド作業の中止を余儀なくされることも少なくありませんでした。加えて、他の助成団体との調整に時間を要したため、当初の予定よりも活動開始が遅れ、限られた期間で集中的に作業を進めざるを得ませんでした。

＜今後の目標＞

気候変動に対するアクションと地域の活性化を両立させるために、今回の取り組みをケーススタディーとして捉えています。今後、他の地域でも応用できるようにデータの収集や複数のステークホルダーの意見を吸い上げてより持続的な活動ができるようにしていきたいです。



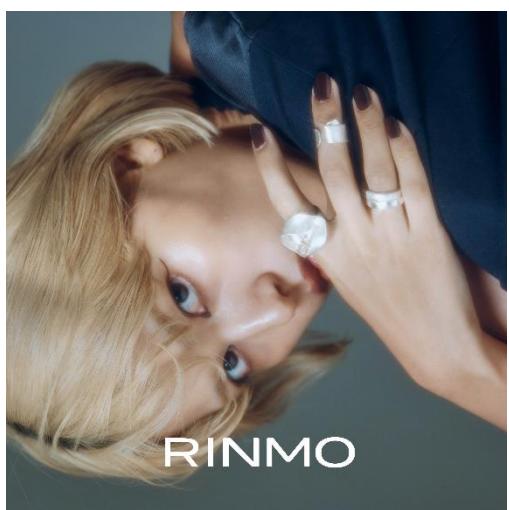
RINMO



RINMO



RINMO



RINMO

＜名前＞

砂田 安菜

歴 2 年

＜活動エリア＞

垂水

区

—

＜活動の分類＞

再資源化 (シルバージュエリー)

＜活動紹介＞

「廃材を宝に」をコンセプトに掲げ、シルバージュエリー ブランドRINMOを運営しています。再生銀をはじめ、工場や工房で出てしまう端材をジュエリーや雑貨に昇華する取り組みをしています。廃材を利用したワークショップの開催や、環境への取り組みや思いをまとめたフリーペーパーの発行もしています。

活動人数

1

人

＜アピールポイント＞

デザイナーとして培ってきた、個性的かつ洗練されたデザイン力が強みです。また、ジュエリー・ファッショ nと言ふライトな入り口で、リサイクルや環境問題へのイメージを変えていくことができる事業だと思っています。

＜課題＞

認知度。現在2年目のブランドで徐々にリピーターも増えてきたところですが、認知度をあげスケールアップできるよう、日々取り組んでいます。

＜今後の目標＞

アクセサリーをつけない層にもブランドを届けることができるよう、アクセサリー意外のアイテム展開をすることが今年の目標。3年以内には海外進出も視野に入っています。



【神戸本部】

- ・さわらび学園
- ・ゼノの村
- ・あさぎりの里
- ・ワークスペース きやんばす
- ・ワークハウス ノーブル
- ・グループホーム えーる
- ・樅の木相談支援センター



＜名前＞

社会福祉法人樅の木福祉会

歴 2 年

＜活動エリア＞

西 区

神出町

＜活動の分類＞

里山・竹林整備、再資源化

＜活動紹介＞

当法人は神戸市西区で60年以上、障害福祉事業を行う法人です。約20年前より、障害者支援及び地域の農業振興の一環として農業事業に参入しました。今般、農業事業及び脱炭素への取組の推進の一環として、「耕作放棄地での緑肥栽培を通じた有機農業の実証事業」を実施しています。高齢化や後継者不足により耕作放棄地が増加する西区神出町にて、耕作放棄地を農地に復活させ、脱炭素効果のある有機農業を実施することで、カーボンニュートラルへ貢献を目指しています。

活動人数

1

人

＜アピールポイント＞

神戸市の一大農業地域である西区神出町で、60年以上も障害福祉事業を行う当法人の特性を活かし、「有機農業」「農福連携」「耕作放棄地の復活」というキーワードのもとカーボンニュートラルへの貢献を目指しています。

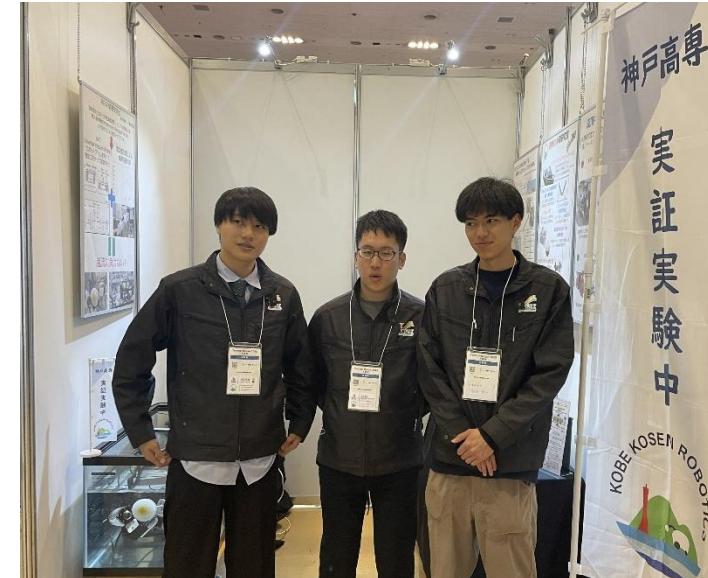
＜課題＞

- ・農業技術の更なる向上、販路の拡大
- ・農作物の加工技術の向上
- ・他事業者との連携/協業の可能性の模索

＜今後の目標＞

管理を行う農地を拡大するとともに、耕作放棄地の復活、有機農業での栽培品目の拡大を目指しています。

また、2026年3月に栽培した作物を冷凍加工する加工場も整備予定であり、更なる事業拡大を目指しています。



＜名前＞

神戸市公立大学法人（神戸高専）

歴 5 年

＜活動エリア＞

西 区

学園東町

＜活動の分類＞

ブルーカーボン（教育）

＜活動紹介＞

神戸高専で水中ロボットの研究をしている研究室でチームを構成しています。水中ロボットを利用してブルーカーボンの保全ができればと考え、音響を利用した調査や保全活動を行うロボットの開発を実施してきました。学校なので常に新しい学生に参加してもらいながら活動も進め、また多くの人に取り組みを知ってもらう活動を進めています。

活動人数

10

人

＜アピールポイント＞

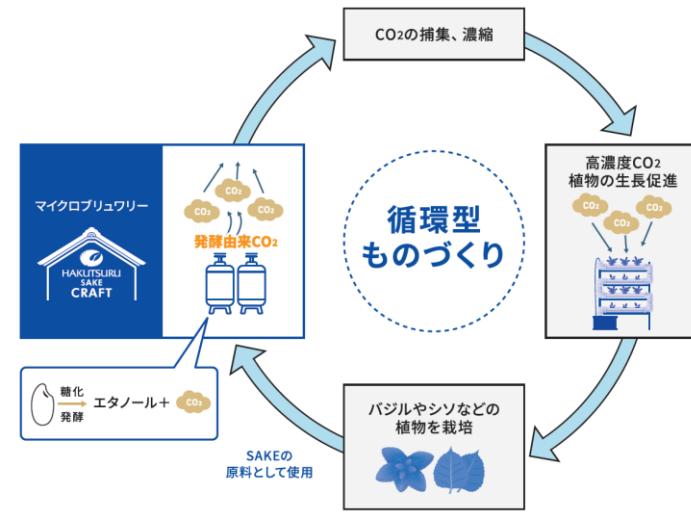
学生の卒業研究の一環として実施していることもあります、学生自ら率先して考え、動いてくれることが多いです。また、高専というものづくりができる環境ならではの、様々に工夫した機材を実現し、実際の海で動作試験を行っています。

＜課題＞

学生の授業の一環で行っているので、メンバーが毎年変わってしまいます。多くの人に活動を知ってもらったりできる反面、技術や活動内容の蓄積がなかなかされづらいです。

＜今後の目標＞

学外での実験や展示を通じて多くの人に神戸高専の活動を知ってもらい、活動を継続していくことが目標です。そのためには、小中学生やその保護者に神戸高専という選択肢があることを知ってもらうのが重要と考えています。



＜名前＞

白鶴酒造株式会社

歴 1 年

＜活動エリア＞

東灘

区

御影エリア

＜活動の分類＞

再資源化

＜活動紹介＞

日本酒のアルコール発酵の副産物として発生する発酵由来CO2を有効活用することを目的として活動しています。具体的には、白鶴酒造資料館内の小規模醸造所「HAKUTSURU SAKE CRAFT」に隣接して室内農業装置を設置し、栽培するハーブ類に発酵由来CO2を施用することで、植物の成長促進への活用に取り組んでいます。ハーブを地産地消型で栽培し、子供向けキッチンカーイベントでの収穫体験や「HAKUTSURU SAKE CRAFT」で製造するクラフトサケの原料への活用も進めています。

活動人数

2

人

＜アピールポイント＞

発酵由来CO2はバイオマス（米）に固定化されていたCO2が再び放出される物で、化石燃料のような新たなCO2排出にはあたりません。本活動ではこの食品由来のクリーンなCO2を新たな資源と捉え、植物の成長促進に活用することで、循環型社会の実現を目指しています。

＜課題＞

現状では栽培したハーブ（主にバジル）の使い道が限られているため、ハーブの活用先が広がると良いと考えています。他の活動者や企業との連携によって、新たなハーブの活用や無理なく継続できる仕組みづくりに取り組めればと思います。

＜今後の目標＞

地産地消型でのハーブの栽培ノウハウを蓄積し、今後の当社が製造するクラフトサケやジンの原料としての活用を模索していきたいと思います。また、キッチンカーイベントでの収穫体験など、外部の方にご協力いただきながら市民の方に参加いただけるようなイベントを開催できればと思います。



＜名前＞

合同会社廃屋

歴 7 年

＜活動エリア＞

兵庫

区

—

＜活動の分類＞

再資源化（地域資源の循環）

＜活動紹介＞

神戸市内では10万戸以上の空き家が存在し、年々増加しています。利用されなくなった建物は建替えや解体がなされ、その「古材や家具」のほとんどが産業廃棄物として処分されてしまい、大量のCO₂排出が発生している状況です。また産業構造の転換により兵庫区では木材製材所や倉庫の廃業が相次いでいます。木材だけでなくガラスなど多岐にわたる「建材」も廃業に伴い再利用されることなく産業廃棄物として処分されている状況です。

その神戸市内の現場ではまだ活用可能な価値ある資源「建材や家具」が多く含まれているものの、それらが再利用される仕組みはまだ未整備となっている状況です。

それらの「建材や家具」を“廃棄しない、再利用する”という暮らしの選択が今必要となっています。いまでは建材としても貴重になるような輸入建材も多く、これらを資源として神戸市内にストックすることで炭素排出の低減に貢献します。

活動人数

30

人

＜アピールポイント＞

古くなった古材や家具をつかうことがかっこいいと思える文化の醸造を目指します。建材の中には、いまでは手に入れることが難しい建材もあり、今こそこのような古材建材をレスキューしてストックする必要がある。古材の再評価をすれば、市民がすすんで古材古家具を使って行く文化が生まれれば焼却処分される材を大幅に削減することができ、またCO₂削減に貢献が可能になります。

＜課題＞

解体される古家の「古材や家具」建材倉庫の廃棄される「建材」について、利活用されず廃棄されるときに排出されるCO₂が問題となっています。また過去日本の建物ではその多くをアジアからの輸入建材に頼っていた時期があり、古い建材には輸送にかなりのCO₂を発生させて輸入してきたにもかかわらず、焼却してまたCO₂を発生させるという悪循環が生まれてます。

＜今後の目標＞

神戸市内、地域に循環を生み、材料の利活用を促す

建材や家具は、使用され続けることで炭素を長期にわたって炭素を固定し続ける貴重な素材です。建材として一度使われた木材を、廃棄せずに再び活用することは、以下に貢献します。

- ・新たな伐採や製材を抑制 (= CO₂排出の回避)

- ・焼却や埋立によるCO₂排出の防止

- ・地域内での資源循環による輸送エネルギーの最小化

上記3点にて、ゼロカーボンの実現に貢献する取り組みへつながっていくと考えます。



＜名前＞

NPO法人須磨ユニバーサルビーチ
プロジェクト

歴 3 年

＜活動エリア＞

西 区 多井畠

＜活動の分類＞

里山・竹林整備（竹林整備）

＜活動紹介＞

できないをできた！に変える。合言葉に、障がいを持っている方やお年寄り、小さなお子さんまで、誰もが楽しめるユニバーサルデザインなビーチを普及していく活動を展開。出張ビーチは33都道府県62箇所。きょうだいプロジェクトが21。海と山との繋がりを意識し、海を飛び出し、里山でタケノコからメンマを作成するプロジェクトを一昨年より開始。商品化と販売を目指す。

活動人数

30

人

＜アピールポイント＞

障がい者が竹林整備を行い商品化まで行うのは珍しい
教科書掲載やブルーカーボン世界2位などユニバーサルビーチの信頼

＜課題＞

収穫量と商品化と販売が課題

＜今後の目標＞

海と山が近接する神戸の特性を活かし、市民・企業・行政が連携したモデル事業として、放置竹林対策として高付加価値化したメンマを作成を確立し、地域循環共生圏を形成。障害の有無や年齢の垣根を越えて、市民みんなが海や里山を身近に感じ、放置竹林、ゼロカーボンに対する小さな行動を主体的に行動することができる。また、全国にお土産として持っていくことで、神戸市でのモデルを普及啓蒙していく。



＜名前＞

高須賀 泰雅

歴 1 年

＜活動エリア＞

西 区 —

＜活動の分類＞

コンポスト

＜活動紹介＞

神戸市外国語大学内にコンポストを設営し、運営・管理をします。大学の食堂からでた食品廃棄物を生ごみとして捨てるのではなく、資源として再利用します。サーキュラーエコノミーと大学関係者、市民の環境意識向上を目指します。

活動人数

4

人

＜アピールポイント＞

今年から始めたプロジェクトで、新鮮さと柔軟性が我々の魅力です。学び続ける気持ちを忘れずに、日々成長していきたいです。

＜課題＞

大学に作ったコンポストで得た堆肥をどこへ渡すのかが決まっていません。近隣の農家さんに渡すのか、大学内に小さな農園を作るのか。まだ悩んでいます。

＜今後の目標＞

費用がかからず、負担になりにくい、継続しやすいコンポスト運営を目指していきたいです。



◀ re.colab_kobe21

関学ボランティア 農業サークル リコラボ
コウベ !! 秋新歓実施中 !!

457 991 506
投稿 フォロワー フォロー中

(“リコラボコウベ”公式Instagram)
大学生主体で“自然再生プロジェクト”を行っています！
DMいつでも受け付中
リコラボ写真垢も運営中→@re.colab_photo... 続きを読む
lit.link/recolabkobe

フォロー メッセージ

イベント リコラボ... 「秋」新歓情... 春新歓情報 メディア

ADOPT ME aloyama 関学ボラ... 11 12

＜名前＞

中原 由香利、金子 太新、
安藝 大智、清水 勇輝 (Re.colab KOBE)

歴 4 年

＜活動エリア＞

北 区

山田町西下

＜活動の分類＞

里山・竹林整備 (里山保全)

＜活動紹介＞

元棚田の耕作放棄地を借り受け、「リコラボファーム」として再生し、大学生主体で身近な環境問題や社会課題に「ワクワク」しながら取り組んでいます。里山保全を主軸に若い世代に環境・農業への関心を喚起しつつ、団体所属メンバー自身も楽しみながら学び成長できる場としています。週に1度、ファームで活動するほか、SNS運用やイベント参加、子ども食堂への作物の提供、地域のマーケットへの出店などを通じた情報発信にも力をいれ、誰もが気軽に環境活動に参加できる社会を目指しています。

活動人数

49

人

＜アピールポイント＞

私たちは学生団体として、「今の自分たちにできること」に目を向けて活動しています。豊かな自然環境を守るために完全有機栽培のほか、耕作や草刈りなどの作業には電動器具を使用し、その動力をすべてファーム内の太陽光発電で賄っています。特別な専門知識を持たない普通の学生ならではの感覚で、無理なく楽しみながら活動しています。

＜課題＞

メンバー自身も里山課題・多様性理解が不足しており、主体性の低さも相まって活動が作業化。里山保全団体としての外部認識の浸透についても課題を感じています。また、遠方と交通費により参加率向上に壁を感じているほか、活動資金獲得や、外部との無理ない交流・コラボ機会づくりにも難しさを感じています。

＜今後の目標＞

メンバー全員が里山課題と多様性の重要性をより理解できる機会を設け、主体性を持って活動を企画・実行できる組織を目指して内部プロジェクトを始動させます。これによってメンバーを引き込み、学びながらも興味関心に従って楽しく活動できるようにしたいです。また、里山保全団体としての明確かつ有益な、より団体の魅力が伝わる発信をしていきたいと考えています。



＜名前＞

角野 史和

歴 4 年

＜活動エリア＞

長田

区

新長田南部

＜活動の分類＞

コンポスト（都市型農園・堆肥づくり）

＜活動紹介＞

空き家空き地の所有者を手助けし、地域の課題を地域の魅力に転換する取り組みを行っています。
(草刈りサービス、管理代行（おさんぽ畠など）、住環境整備、相談など)

活動人数

約10

人

＜アピールポイント＞

長田区に4箇所、垂水区に1箇所の都市型菜園「おさんぽ畠」を運営しています。増え続ける野菜残渣や地域の草刈りサービスで生まれる刈草などを堆肥化し「おさんぽ畠のクラフト堆肥」の商品化の取り組みを行っています。

＜課題＞

野菜残渣を細かく粉碎するのに苦労しています。どうしても太い枝が堆肥化できず残ってしまいます。
窒素分に鶏糞を購入して添加していますが、地域で手に入るモノ（管理しやすいもの）を探しています。

＜今後の目標＞

「おさんぽ畠のクラフト堆肥」を雑貨店やネットなどでの販売を検討しています。

14:18

75

kobe_satoyama ◎ +



里山日誌～神戸里山利用促進アカウント～

12
投稿126
フォロワー122
フォロー中

神戸の「里山」って知ってますか？
里山の知識、神戸市産材のことまで、
楽しく紹介中
※神戸大M2運営アカウント

ダッシュボード

過去30日間に1,756回閲覧されました。

プロフィールを編集

プロフィールをシェア



＜名前＞

門 雅稀

歴 1 年

＜活動エリア＞

北・灘・中央

区

神戸市里山周辺

＜活動の分類＞

情報発信（神戸里山利用についての周知活動）

＜活動紹介＞

都市近郊に広大な里山を有する神戸市では、地域の森林を育み活かす取組が動き出しています。その一方で、大学生をはじめとした若者の里山の認知度は低いです。そこで、Instagramを用いて里山の機能や開催されるイベントなどをわかりやすく伝え、里山への興味関心を促しています。

活動人数

1

人

＜アピールポイント＞

「もぐりん」という里山を紹介するキャラクターを作り、子供でも分かるように簡単な言葉で動画を作ることで、初めて里山に触れる人にも里山の理解がしやすいように心掛けました。また、自身の研究活動や、森林にかかわる実務者へのインタビューを通して、学術的な目線から里山について発信しました。

＜課題＞

神戸では里山に関するイベントが沢山開催されているのに対し、一般の方への周知がまだ足りていないと感じています。今後も、一般の方への周知を続けていきたいです。

＜今後の目標＞

今年でこのアカウントの活動は終了しますが、今後も森林資源学研究室では神戸市での里山の研究を行います。里山材の発信を通じ、里山資源を生産する森林と、里山材を利用する消費者との距離がさらに近くなることを願っています。



＜名前＞

株式会社神戸新聞社

歴 約6年

＜活動エリア＞

兵庫県内

—

＜活動の分類＞

里山・竹林整備、再資源化

＜活動紹介＞

森：六甲山周辺の住宅・商業地の危険木等で炭や薪をつくり、市内飲食店にて活用。居住エリアの安全性確保と六甲山の眺望保全に貢献することを目的としています。
海：播磨灘で地元の放置竹林の竹を活用した筏で牡蠣をつくっています。筏使用後は竹をチップにして山に戻し、肥料として活用。

里：県内牧場で出たごみを発酵して、バイオガスを生成、発電に使用。副産物の消化液を有機肥料に酒米を育て、県内の複数蔵で日本酒を醸造しています。資源循環によってエネルギー消費の少ない農業を推進しています。

活動人数

約15

社

＜アピールポイント＞

2025年は3月に、第6回SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞（農林水産・食の部）を受賞。11月に、令和7年度気候変動アクション環境大臣表彰（先進導入・積極実践部門）で大賞を受賞しました。取り組みが評価されることで、新しいものづくりに挑戦する生産者や企業に注目が集まるようになるのではと思います。

＜課題＞

取組の更なる発展のため、人手や資金が足りないことが課題です。協賛や寄付をいただけるような地域環境における課題解決を行っていきたいと思います。また、環境経営に取り組みたい、資源循環型・脱炭素型のものづくりにチャレンジしたい、産業廃棄物のコストを減らしたいなどの課題がある企業さまと協同していきたいと考えています。

＜今後の目標＞

様々な分野の企業様と連携して、資源循環・脱炭素型のものづくりを推進し、地元新聞社として、旗振り役となって地域の環境問題に取り組んでいきたいと考えています。



＜名前＞

藤田 凌伍（甲南大学BambooにThank you Project）

歴 5 年

＜活動エリア＞

北 区 一十士

＜活動の分類＞

里山・竹林整備（放置竹林問題解決プロジェクト）

＜活動紹介＞

私たちちは「竹の伐採・利活用・認知拡大」を軸に、放置竹林問題の解決に取り組んでいます。継続的な竹の伐採に加え、環境問題に関するイベントの参加・主催を行い、伐採した竹は竹チップや竹炭へと加工して活用しています。また、竹ペレット製品など竹の利活用の拡大にも取り組んでいます。これらの活動を通して、竹の魅力や放置竹林の課題を多くの方に伝えながら、地域の自然環境を持続可能な形へとつないでいくことを目指しています。

活動人数

17

人

＜アピールポイント＞

私たちは、学生主体の活動ならではの柔軟な発想力を強みとしています。竹林整備やイベント参加を通じて放置竹林問題への理解を深め、放置竹林がもたらす地域課題に少しでも貢献できるよう、取り組んできました。さらに、万博での展示や、竹の利用拡大のための取り組み、企業との連携による竹製品の開発など、社会への実装に向けた挑戦も積極的に進めています。

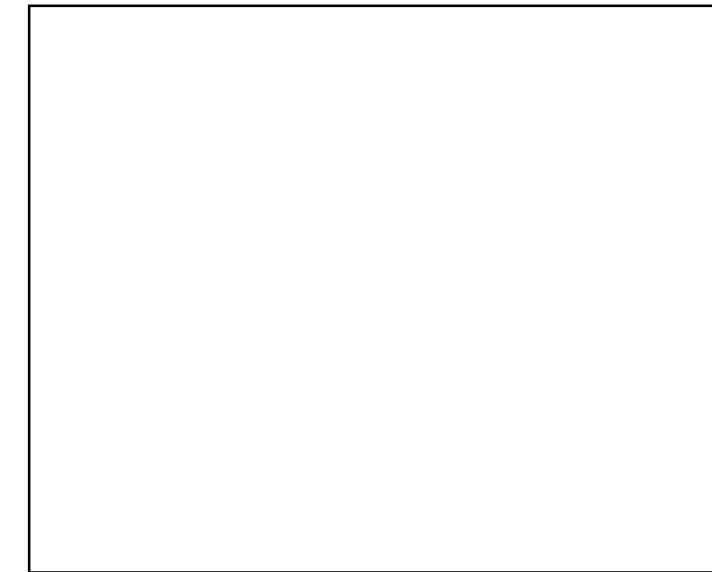
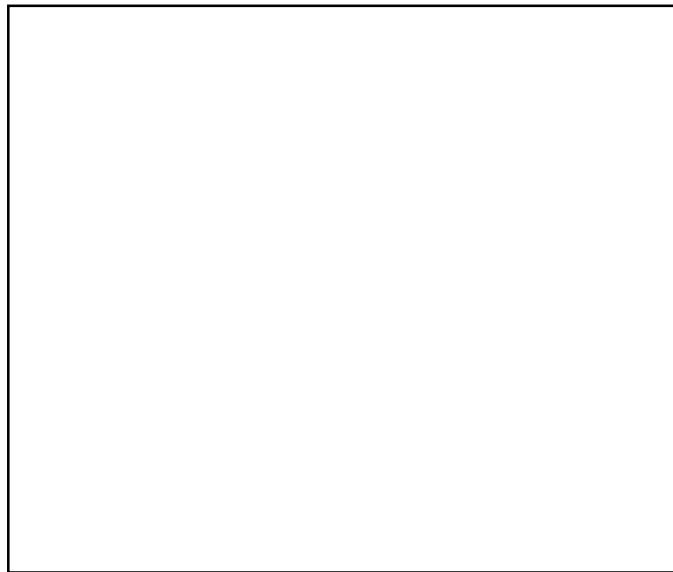
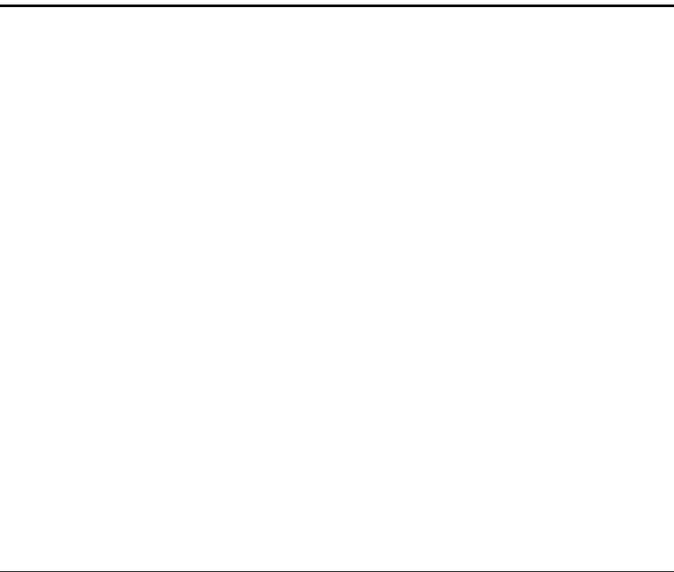
＜課題＞

竹の認知度や需要の低さに加え、伐採希望者の分散や放置竹林の特定の難しさ（私有地の可能性も含む）が課題です。これらを解決するため、私たちは竹の新たな流通システムについて学び、そのあり方を検討しています。

＜今後の目標＞

今後は、竹の流通システムのあり方から検討し、竹が持続的に活用される仕組みが作られるよう、そこに貢献できる活動を進めていきます。また、放置竹林問題の認知を広げるとともに、教育の場で竹に触れる機会を増やし、次世代への学びや意識づくりにもつなげていきたいと考えています。





<名前> 三宮本通商店街振興組合（ミチニワ） **歴** [] **年**

<活動エリア> 中央 区 三宮2丁目一帯

<活動の分類> 里山・竹林整備（都市の緑化への取り組み）

<活動紹介>

ゼロカーボンでは脱炭素をテーマとしたイベントを行いい、そのときの街の賑わいを数値に換算して里山の整備に役立てる取り組みを行いました。

その時の街組織と地域企業（川崎重工業）のつながりを継続して、現在市の建設局公園部の三宮・元町地域の自然な緑化（livingnature_kobe）
<https://www.city.kobe.lg.jp/a53249/livingnaturekobe.html>の地域内実装（同コンセプトによるプランターの継続的設置と運用）に取り組んでいます。

この取り組みの一環として、市内の緑化をベースとした脱炭素の数値化も計画されています。

活動人数 20 人

<アピールポイント>

自然に恵まれた大都市「神戸」のありようを活かした自然体の取り組み
DXと緑化、脱炭素の融合
地域商業と企業、行政の継続的な取り組み

<課題>

事務局体制の構築。

<今後の目標>

2026年3月に、プランター灌水等を行う「気軽で気分のよいボランティア」コミュニティの立ち上げを予定しています。



＜名前＞

小林 剛史 (KOBE里山伐木ゼロカーボン研究会)

歴 4 年

＜活動エリア＞

北 区 山田町小河

＜活動の分類＞

里山・竹林整備 (バイオ炭製造 (炭焼き) 、伐木&製材)

＜活動紹介＞

炭焼き：竹炭焼き (放置竹材の再生と竹林整備)
木炭焼き (皆伐木材の活用)
※成果物として、竹炭、木炭、竹酢液へ

製材：杉、檜、櫻、小楠等、あらゆる材を縦挽き
※成果物として木材製作
(KOBE里山自然共生センターの看板と机天板に採用)

活動人数

3 ~ 5

人

＜アピールポイント＞

炭焼き：稼働時間短縮。36時間→8時間稼働 (▲28時間)

工程①伐倒-②寸法加工-③窯投入-④炭化-⑤練らし-⑥完成

製材：製材機を使わず“チェーンソ総挽き”

工程①伐倒-②集材-③乾燥-④縦挽- (⑤寸法加工-⑥完成)

＜課題＞

炭焼き：現炭焼き窯鉄板厚7.0mmでMax900度(黒炭850度)の為、
備長炭(白炭MAX1200度)が炭焼き出来ない。

製材：小河山林材は細い材 (Max250mm) が多い為、1枚板天板製作が困難
1枚板天板900mm～1,200mm (Min300mm×3、450mm×2)

＜今後の目標＞

炭焼き：“出張炭焼き”的実施 ※“竹炭枕”製作の実演。

“橡 (くぬぎ) ”入手し、“菊炭”炭焼きに挑戦！

製材：⑤“寸法加工”迄の製作推進 ※寸法加工機の購入必要。総額50万円
 (“机、椅子、箪笥”等の製作！)



＜名前＞

根来 真弥、田中 愛菜（宇野 知秀）

歴 1 年

＜活動エリア＞

灘

区

六甲台町1-1

＜活動の分類＞

再資源化

＜活動紹介＞

体験イベントの一つとして、神戸大学農学部で行うイベント[オープンキャンパス,ひらめきときめきサイエンス,中・高校生対象の実験授業]で山田錦の米ぬかの再資源化のイベントを実施します。イベント用のチラシやポスターを作成します。イベントでは米ぬかを活用した石鹼や食品を作る事により、米ぬかの再資源化について紹介します。体験イベントは年間合計4回実施します。大学では、山田錦の米ぬかを再利用した食品や化粧品の開発を行います。

活動人数

1

人

＜アピールポイント＞

神戸大学で行われるイベント（オープンキャンパスや実験授業）で、米ぬかの再資源化について紹介します。その際、私たちが開発した化粧品や食品について紹介します。実際に作成した石鹼を使ってもらいました。イベントや製品の開発は、大学生と大学院生に協力してもらいます。

＜課題＞

今までに共同研究で山田錦の米ぬかを用いたクリームを作成し、石鹼についても開発した。しかし、他の製品については開発していない。また、米ぬかを用いた食品については、全く開発していない。機能性を改良した米ぬかを作成することにより、他の製品との差別化をしたい。

＜今後の目標＞

山田錦の米ぬかを用いた化粧品を更に開発する。更に、食品の開発を行う機能性を増強した米ぬかの開発も試みる。神戸大学で行われるイベント（オープンキャンパスや実験授業）で、米ぬかの再資源化について引き続き紹介します。ポスターについても、新たに作り直す。



＜名前＞

株式会社ナガサワ文具センター

歴 2 年

＜活動エリア＞

区

神戸市各区

＜活動の分類＞

再資源化 (プラスチックごみアップサイクル)

＜活動紹介＞

プラスチックごみのアップサイクルワークショップを実施。ごみがあたらしいものに生まれ変わる流れを簡易に再現。お子様でもアップサイクルという内容を理解していただき、幅広い年齢層の方々へのアップサイクルの意識づけを目的に活動をしています。現在はおもに、NPO団体様や大学様主催のイベントに参加し、ワークショップを実施しております。

活動人数

3

人

＜アピールポイント＞

チップ化したプラスチックごみを機械の中で溶かし、型(コマや定規など)へ流し込みコマ、定規などを作製します。本格的なアップサイクルだとごみの回収、チップ(資源化)、商品作製というように多くの協力企業や様々な成分テストなどの流れが必要であり、アップサイクルのスキームの途中経過を目視できない。ワークショップはこのスキームを簡易版ですが目視で体験することができます。

＜課題＞

現在は機械を協力企業よりレンタルしイベントを実施。費用が発生しているが、社内負担ができないため、学校様、企業様などのイベントにお声掛けをいただき、イベント実施ユーザー様に費用負担をいただき実施しているため、機械購入し、自走できるようにする事が課題となります。

＜今後の目標＞

大学様とコラボし、学生様と海岸クリーン清掃を実施しその後ワークショップ体験などの活動をしております。大学様だけではなく、小中高と幅広い学校様とのような活動(課外学習)の実施、企業様の社内イベント(ご家族様を招待イベント・SDGsイベントなど)にお声掛けいただきワークショップを行い、アップサイクルの意識づけを行って行きたいと思っております。



＜名前＞ 淡河バンブープロジェクト 歴 7 年

＜活動エリア＞ 北 区 淡河町

＜活動の分類＞ 竹林整備

＜活動紹介＞

淡河町内にも多くの手入れされていない竹林が増加傾向にあり、高齢化と人口現象により竹林管理を行う担い手不足は全国の過疎エリアと同様の状況にあり、淡河町内の地域課題としても認識されています。竹林を継続的に管理できる仕組み作りとして、竹の抑制と伐採を行い、この竹を「里山の資源」として活用する取り組みを行う地域団体グループとして「淡河バンブープロジェクト」が2019年秋に発足しました。

活動人数 30 人

＜アピールポイント＞

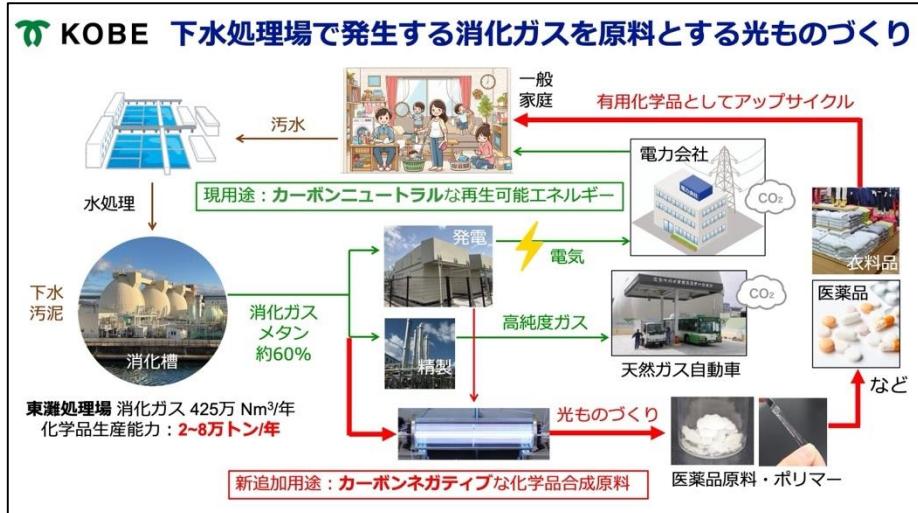
「美味しい・楽しく！」をモットーとする活動方針が示すように、参加するメンバーが活動自体を楽しみ、ランチやデザート等をワイワイと談笑しながら楽しめるようにしています。活動の参加者も30歳代～70歳代までと幅広く、各々のメンバーが可能な範囲で可能な活動を継続しています。

＜課題＞

より一層の活動内容の自立に向けて、各種のプロジェクトを組み立てているが、まだまだ小さな動きであり、マンパワー不足は否めない。活動内容により、より大きな設備や機械を必要とする場面が多くなってきており、インフラ・ハード面での今後の工夫が必要な状況となっています。

＜今後の目標＞

特に今年度は、新たなメンバー勧誘や一般ボランティア受入れをより積極的に行いたいと考えています。また中長期的な目標として、自立自走ができる体制作りを継続的に行っていきたいと考えています。



＜名前＞ 光オンデマンドケミカル株式会社 歴 1.5 年

＜活動エリア＞ 東灘 区 魚崎浜エリア / 東灘処理場

＜活動の分類＞ 再資源化（循環型社会の整備）

＜活動紹介＞ 地球沸騰化時代が到来し、脱炭素社会の実現が急務となっています。私達のグループでは、神戸発で世界初の「光オン・デマンド化学品合成法」の開発に成功しました。このオリジナル特許製法を使って、光オンデマンドケミカル(株)・神戸大学・神戸市の産学官連携体制で、下水から発生するバイオメタンを原料とする光ものづくりによる資源循環型グリーン化学品生産の社会実装に取り組んでいます。

活動人数

15

人

＜アピールポイント＞

2024年に私達のグループは、下水処理場の汚泥から発生するバイオガス(メタン約60%とCO₂約40%の混合ガス)を原料として、光で医農薬原料やポリマーなど有用化学品が合成できることを実証しました。脱炭素ならびにSDGsへの多大な貢献が期待されています。

＜課題＞

光オン・デマンド化学品合成法は、メタンガスを一時的に極めて反応性の高い化学物質に変換できる革新的な科学・技術です。今後も安全第一で、歴史ある化学品生産企業とも連携して、それを大型化して商業生産に利用できるように開発を継続しなければなりません。

＜今後の目標＞

2026年春に神戸医療産業都市で開所予定の神戸大学「KOBE光ものづくりオープンイノベーション拠点」から、産学官金の連携で光ものづくりの本格的な社会利用を目指します。神戸発の資源循環型グリーン化学品生産による、阪神光ものづくり工業エリアの形成を目指します。



＜名前＞

小寺里づくり協議会

歴 3 年

＜活動エリア＞

西 区

小寺集落

＜活動の分類＞

里山・竹林整備（竹林整備）

＜活動紹介＞

集落は少子高齢化により個人所有の放置竹林が散見されます。「竹林整備プロジェクト」を発足しました。プロジェクトでは、近隣ニュータウンの都市住民や大学生ボランティアを募集して、非日常的な竹林伐採などを住民との協働作業で関係人口が増えました。また伐採した竹を活用した、「竹に親しむ会」を3年間開催しました。21mの流しそうめん、竹灯りの制作、竹玩具の制作などの楽しいイベントになりました。

活動人数

15

人

＜アピールポイント＞

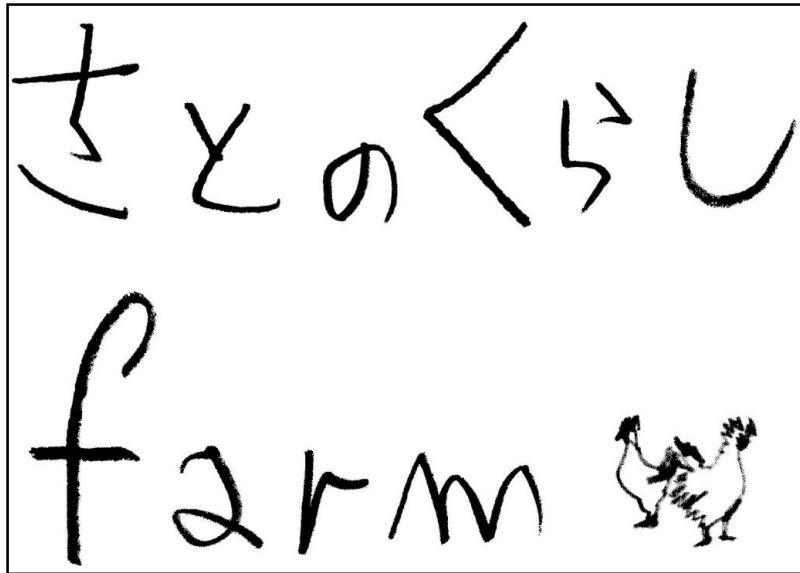
竹林整備の副産物の竹資源（竹パウダー・竹炭）を活用して、「竹パウダー式コンポスト」のキットを制作しました。生ごみを堆肥化することで、焼却ごみ（生ごみ）の減量による二酸化炭素の排出量の縮減をします。また、竹資源を活用して、持続可能な循環型有機農法に貢献しています。

＜課題＞

竹林所有者の高齢化で整備した竹林を継続的に維持することが困難。県・神戸市所有の放置竹林が居住地に迫っている場所の対応。神戸市として、竹林整備と副産物（竹パウダー・竹炭）を活用した事業化の検討。活動の支援者、学生などのボランティアの確保の仕方。

＜今後の目標＞

生ごみの減量の観点で自校給食施設のある小学校の調理残渣や残飯を「竹パウダー式コンポスト」を推進して堆肥化します。小学生に総合学習として環境教育の一環「生ごみが消える」観察体験をします。実施主体は神戸市・教育委員会で竹林整備団体との連携システムの構築が必要。



＜名前＞

石田 篤

歴

6

年

＜活動エリア＞

北

区

大沢町

＜活動の分類＞

カーボンファーミング（農業生産）

＜活動紹介＞

土壤の耕作頻度を減らしながら有機農業を実践することで土中の田舎貯留の放出を減らす取り組みを進めています。

活動人数

10 ~ 20

人

＜アピールポイント＞

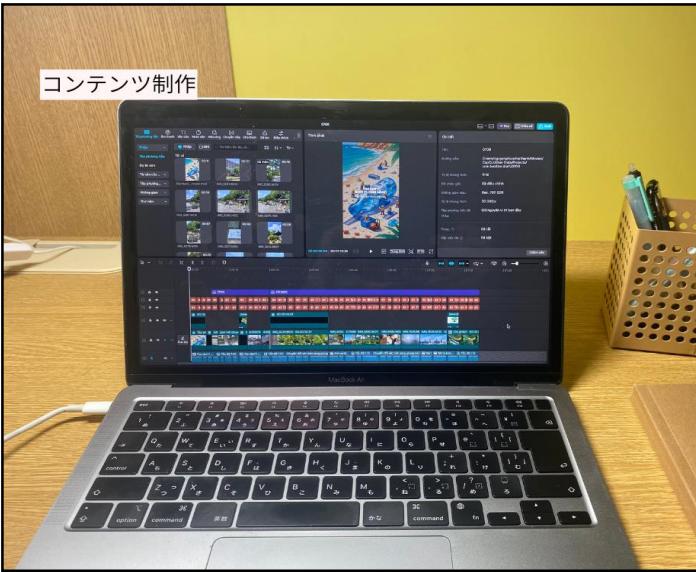
北区大沢町で1年を通して多品目の有機野菜を栽培しています。（有機JAS認証取得）生物多様性・地域資源循環・余剰分の共有が農園のテーマでCSA（地域支援型農業）スタイルの野菜ボックスを一年を通して出荷しています。

＜課題＞

今後耕作放棄地の面積が集落でも増えていく中で、耕うんによる保全だけでなく、耕うんしない保全で管理できる方法をどう構築していくかが大きな課題です。

＜今後の目標＞

CSA（地域支援型農業）スタイルの良い点は生活者の皆さんと畠を軸に交流が生まれる事です。メンバーを増やしていく事が農村の現状を知って貰い、炭素貯留型の栽培の意味を理解し、地球温暖化にも寄与することを知って貰うことに繋がるので、もっと関わって下さる方々を増やしていきたいと考えています。



〈名前〉 グエンフックハイターン、ホアカムトワー
(GREEN BRIDGE KOBE) 歴 1 年

〈活動エリア〉 中央 区 元町通周辺

〈活動の分類〉 情報発信

〈活動紹介〉

私たち、情報発信の内容を二つの主軸に分けて展開しています。一つ目は、神戸市が現在進めている環境に関する取り組みやプロジェクトをわかりやすく紹介し、市内の留学生に知ってもらうことを目指します。二つ目は、こうした取り組みをきっかけとして、日常生活の中で実践できる行動や意識の変化につなげる提案です。個人でも気軽にできるリサイクルや、地元産の食品の選択など、Z世代がすぐに取り組める小さな行動を紹介することで、環境問題に「自分ごと」として向き合う意識の醸成を図ります。

活動人数 2 人

〈アピールポイント〉

私たちの大きな強みは、留学生が活動内容を理解し、行動に移しやすくなるよう、多言語での情報発信を行っている点です。また、環境にやさしいライフスタイルを実践してもらうための具体的な手引きとして、独自のガイドブックを作成し、留学生や日本人学生が自由にダウンロードできる仕組みを整える予定です。

〈課題〉

活動を継続的に行っていくためには、情報発信の根幹を担うコンテンツ制作を安定させるための人手不足が、現在の私たちの課題です。最初は少人数で活動しようと思いましたが、活動をより発展させるためには、既存の視点にはない、新しい切り口や発想をもたらしてくれる外部からの協力者が必要だと考えます。

〈今後の目標〉

活動をさらに広げていくため、まずは市内の他の大学の留学生との繋がりを広げていきたいと考えています。特に、日本語学校や専門学校に在籍する留学生にも情報が届くよう、効果的な周知方法を見つけ、活動の輪を広げていきたいです。様々な方からの参加で活動を長く継続できるように工夫していきます。